

従業員ひとりひとりが主役の環境活動 それぞれが役割を実行して、環境と経営に貢献

株式会社とりせん(群馬県館林市)

これまで半世紀にわたり、「誠実、信頼、努力」を社是として事業に取り組んでいる株式会社とりせん。群馬県を中心に北関東で58店舗を展開、お客様のより豊かな暮らしを創造するために、安全で良質な商品・サービスを提供しています。お客様の食を預かる会社として「安全、安心」を社業の基本と考える同社では、地球温暖化に代表される環境問題を企業の社会的責任と位置づけ、商品の仕入れから販売、消費にいたるすべての段階において、資源の再利用や環境負荷の低減に取り組んでいます。

地域を取り巻く環境問題については、企業市民としてふさわしい責任と行動力で柔軟に対応し、「地域のお客様とともに環境保全に努めていく」と語る同社。エコアクション21を環境活動の指針と定め、全店舗で認証を取得、環境負荷軽減に向けてひたむきに努力を続けています。そうした活動をコスト削減、企業利益につなぎ、さらなる前進を図る同社に、エコアクション21を導入した経緯、導入時の苦労や成果、効果など、興味深いお話をお伺いしました。



代表取締役社長 前原 宏之

契機

創立60年の節目に「環境に強い企業になる」と決めました

創立60年の節目を迎えたときでした。「社会に評価されることをやろう」という動きがありました。そこで出てきたのが「とりせんは環境に強い企業になる」ということでした。日頃から「安全、安心」をモットーとしている会社ですし、環境をひとつの強みにしていこうと考えたわけです。では、どうするか。やはり何かしきりが必要になり、環境省が勧めているエコアクション21が向いていると思いました。「省エネ、省コストはエコアクション21を実践していれば自然と身につく」、それが決定打になりました。

環境活動をわかってもらうまでが大変でした

やはり環境活動のいろはを教え込む、浸透させることに苦労しました。しかも全店舗になりますから、水平展開するのも大変でした。まずはじめに、店長会議を通じて各店舗のリーダーの意思統一を図り、その後、それぞれの店舗で周知・徹底、つまり教え込むというやり方にしました。具体的には、ひとりひとりの役割を実行しよう!ということで、環境方針カードに「環境保全への私の役割」を記入したり、それを各店舗の「エコアクション推進組織図」に展開したりして、社員の啓蒙、啓発を進めてきました。何とか当事者意識が芽生えたようで、ようやく会社として環境活動が定着してきたように思います。

成果

「廃棄物」が「有価物」に。リサイクルの徹底で利益が生まれました

全店舗、全社員がそれぞれの役割を実行する中、店舗照明のLED化やバイオディーゼル車の導入などで、会社全体での省エネはかなり進んだと思っています。この省エネによる経費節減は、原資という形で企業利益になっています。さらに、リサイクルの徹底による段ボールの回収は、これまで「廃棄物」だったものが「有価物」となりました。

株式会社とりせん(代表取締役社長 前原 宏之)

本社：群馬県館林市下早川田町700番地

設立：1948年2月1日

資本金：10億4,300万円

事業内容：スーパーマーケット

(主な取扱品:生鮮食品、加工食品、日用雑貨、米、酒他)

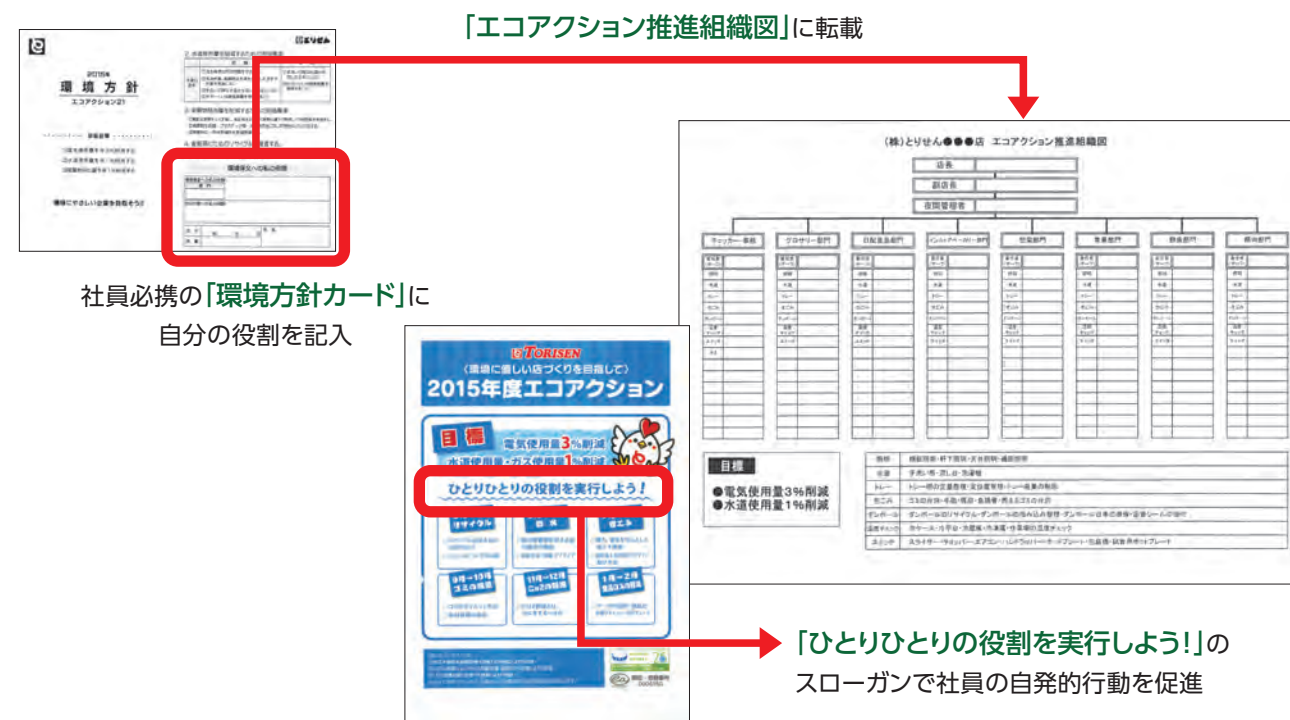
EA21認証・登録番号:0004150

(最新の環境活動レポートは <http://www.ea21.jp/list/pdf/0004150.pdf>をご覧ください)



環境負荷削減へのユニークな取り組み

エコアクション21への取り組みにおいては、個人の役割を明確にすることで、やる気と責任感をもって日々行動できるようにしています。



苦労

環境にやさしい新店舗づくり

これまでの環境活動で培ったノウハウを、私どもの考えるこれからの店舗スタイルに融合。はじめから環境負荷のことを考慮した、環境にやさしい新店舗をオープンさせようと考えています。

現状と効果の「見える化」促進

「デマンドコントローラー」を設置、電力使用量をリアルタイムに、従業員の誰もが見えるようにしました。使用量が見えることで、従業員の省エネに対する意識が変わり、電気使用量削減に大きな効果がありました。

お客様とリサイクル推進

33の店舗でリサイクルステーションを導入。リサイクル品を持ち寄っていただいたお客様には、お店で使える「お値引き券」を進呈、お客様とともにゴミの減量、リサイクルの推進を図っています。

また、他ではあまり見かけない古着の回収も、お客様から「次はいつ?」とお声がかかるほど好評をいただいています。

数字にならない成果

成果は、数字に見えるところにとどまりません。小売業、とりわけスーパーマーケットという性質上、商品を安心して買えるのは絶対条件です。これまでの「ゴミを捨てる」から「リサイクル」に変革した姿を、エアゴとに開催しているお客様との意見交換の場「モニター会議」でお知らせしたところ、とくに女性のお客様から信頼していただくことができました。当社にとって、これ以上の成果はないかもしれません。